

酒々井町

郷土研究会会報

第108号

平成15年4月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

『佐倉風土記』と

『古今佐倉真佐子』

高橋健一

元禄十四年(一七〇一)六月十四日、老中稲葉正通が越後国頸城郡高田城(新潟県上越市)から下総国印幡郡佐倉城(佐倉市)の城主に移された。その領知高は高田の時と同様、

十萬二〇〇〇石であった。正通は宝永四年(一七〇七)八月二十一日に隠居して正往と改名し、次男正知が家督を相続した。正知は襲封に際して新田三〇〇〇石を弟正佐に分知している。

享保八年(一七二三)五月一日になると正知は山城国久世郡淀城(京都府京都市伏見区)に移された。この稲葉氏時代、その領知は寒川筋、成田筋、印西筋として支配され

ており、印幡郡九七村・千葉郡二五村が寒川筋、埴生郡五四村・印幡郡二三村・香取郡一〇村が成田筋、印幡郡六〇村・千葉郡三村が印西筋に属していた。

現在の酒々井町域では、馬橋村・墨村・飯積村・尾上村は寒川筋、本佐倉村・酒々井村・中川村・下岩橋村・伊篠村・伊篠新田・上岩橋村・柏木村は成田筋とされた。

また、田は寒川筋に二四五四町一反三畝一九歩、成田筋に二八八八町二反七畝二四歩、印西筋に一八七八町三反三畝一四歩、畠は寒川筋に一〇二町六反二畝半、成田筋に一六二八町七反一畝一六歩、印西筋に一三八五町五反二五歩が広がっていた。

人口は寒川筋が四二二三戸で二万九三九人(男一万一一七六・女九七六三)、成田筋が四五〇六戸で二万三八四人(男一万一六二八・女九七五六)、印西筋が三五二八戸で一萬

五五八八人(男八四三一・女七一五七)あり馬数は寒川筋二七一〇、成田筋二五四七、印西筋一九四八であった。

この稲葉氏時代の領内の様相を伝える史料に『佐倉風土記』と『古今佐倉真佐子』がある。前者は稲葉氏家臣磯辺莊左衛門昌言(一六六九〜一七三八)が編纂にあたり享保七年(一七二二)に完成したものである。後者は同じく家臣渡辺善右衛門守由(一七〇一〜一七六二)が「硯に向、筆にいわせ、心にまかせ、そこはかとなく書つくせは、いと面白事而已おふかんめれ、いともかしこく、いにしえの事こそ、今目前に有か如、

下総国佐倉城の領内

一、成田筋の領内
二、印西筋の領内
三、寒川筋の領内
四、馬橋村の領内
五、墨村の領内
六、飯積村の領内
七、尾上村の領内
八、本佐倉村の領内
九、酒々井村の領内
十、中川村の領内
十一、下岩橋村の領内
十二、伊篠村の領内
十三、伊篠新田の領内
十四、上岩橋村の領内
十五、柏木村の領内

一つの記と成し物をと、又過行末の
 楽とも成ぬる事を思いつつて、山
 州淀の記をつつり、統て乾兒の二記
 と成しを、古今真さこと号して他の
 因に致し折しもは、昔を思ひ出の種
 ともならん物を」として書き留めた
 ものである。

そのため、『佐倉風上記』が封城、
 風俗、城封侯附、郡村田島戸口馬附、
 山川泉石淵沢、道路転漕橋梁、土産、
 神社、仏寺、墳墓、人物、古蹟の項
 目で執筆されたのに対し、『古今佐
 倉真佐子』は、下総之因佐倉此因之
 集、下総一忍んの印、佐倉城下城く
 わくの趣、当城主代々銘附、三之丸
 一曲輪之趣、椎木曲輪いち忍んに印
 す、根曲輪辺より七曲天神曲輪之趣、
 天神曲輪より裏表宏小路中下町大下
 町辺之趣、鷹てう町辺之趣、宮小路
 より新長屋辺並かぶら木小路の趣、
 横町より海隣寺鍛冶作田町江戸口に
 かざる趣、新町入口札之辻より肴町
 辺中びやうもかみ町八軒町同心町辺
 の趣並あいの町久保丁元町の辺迄の
 趣、鍋木村辺の趣並海隣寺曲輪清兵
 衛長屋の趣、躍孤台の辺、佐倉筋三
 筋の趣、町方年中之式法、雷の事火
 事の事、御日待有寺之名、佐倉名物

之次第、田町裏近辺並山の崎弁天の
 事、海隣寺曲輪屋敷前の事、府内曲
 輪名寄並在々わけ有分附り城より方
 角付、角来より江原白井辺之趣、下
 根村より飯野印西松虫村辺之趣、将
 門山大桜村よりはまじく中川辺の趣、
 本佐倉辺より酒々井村柏木村北塚村
 辺之趣、上岩橋より成田三ノ宮辺の
 趣、酒井より七牧の野駒の事、大蛇
 村辺より五霊の事、太田村辺より飯
 重羽鳥寒川の事、土煙大風ちしん野
 火事は等之趣、薪女男奉公人ごせざ
 とう正月ものもらい念仏並水戸しし
 大かぐら類の趣の内容で執筆されて
 いる。

『佐倉風上記』『古今佐倉真佐子』
 は、いにしえの郷土の歴史を探るう
 えで欠くことのできない、貴重な史
 料であるといえよう。

普茶料理と吉野ヶ里

上田悦子
 昨年十二月中旬、忙中閑ありと歳
 末の気忙しさから逃れ、予てから行
 きたいと思つていた「吉野ヶ里遺跡」
 嬉野方面一泊二日の旅に出た。



日目は大川内山一伊万里一唐津城一
 多久聖廟と盛沢山の行程。待つてい
 た祐徳バスで柳川に向かう。柳川で
 は二時間半の自由行動に先ず白秋記
 念館を見学。観光会社には内緒で一

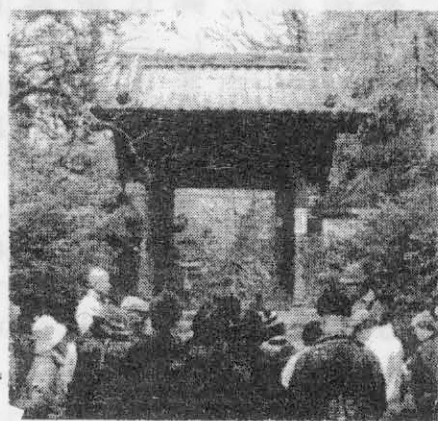
気心知れた
 友人と夜も明
 けきらぬ早朝
 五時。京成酒
 々井駅を出発
 し羽田から佐
 賀空港に向か
 い機上の人と
 なる。目映く
 輝く朝日に映
 える富士山を
 眼下に、今回
 の旅の感動の
 始まり、おし
 やべりをして
 いるうちに佐
 賀空港到着。
 観光コース
 は一日目が柳
 川一吉野ヶ里
 自然公園一嬉
 野温泉和多屋
 別荘泊り。二

ヶ月前予約していた普茶料理のいた
 だける柳川藩主立花家の菩提寺・黄
 葉宗福蔵寺にタクシーをとばす。柳
 川の名刹で中国風精進料理の賞味で
 きる期待が胸一杯にひろがる。出さ
 れた品数三十数種、丹念に一つ一つ
 の手作り、もてなし下さる方の礼
 儀深さや温かい言葉に、格別な味が
 一段と美味を感じ、おいしい！の一
 言。本堂に心から合掌しタクシーで
 集合場所に戻る。

次はあこがれの「吉野ヶ里歴史公
 園」、入園するや規模の大きさに思
 わずうなってしまう。

十四年前平成元年二月二十二日に
 発見され、四十ヘクタールの広さと
 いう。ここに邪馬台国があり卑弥呼
 がいても不思議ではない気がしてく
 る。歴史を見る時、やはりその地に
 たつことにより歴史が生をとりもど
 してくれる。「漢倭奴国王」金印が
 志賀島で発見されたことが頭をよぎ
 り、邪馬台国が何処かいつかは解か
 れることだろうと思いを残し嬉野温
 泉に向かう。島津藩の御用宿だった
 歴史と神功皇后ゆかりのお湯はお肌
 にとてもやさしく一日の疲れが癒さ
 れ、明日に残された行程を夢路にの

せてお休みタイム・・・。
 私にとって旅は、歴史とロマンに
 包まれ見て識る何よりの宝庫であり、
 地図を広げては次々と思いをめぐら
 せている。



安国論寺

日蓮上人ゆかりの

寺々に詣でて

滝川京子

今年の初詣は鎌倉。日蓮上人縁の
 お寺参りが計画されている。天気予
 報は昼頃低気圧が関東地方を通過す
 るという。気にかかりながらも酒々
 井衆・善男善女二十七名オレンジ色
 の小旗の下に集合。お参りの第一歩
 は安養院。北条政子の法名から名づ
 けられたこのお寺、五月はツツジが
 美しく俗にツツジの寺ともいわれる。
 扉の閉じた本堂の千手観音をガラス

ごしに拝む。この観音さまは良縁、
 出世を求める人々の厚い信仰を集め
 ているとか。会長さんの説明を耳に
 寺の裏手に回る。大小二基のお墓が
 あって左側の小さい方が政子の墓と
 のこと、お墓はひっそりとたたずん
 でいた。季節外れのゆえか訪れる人
 も少なく静かなお寺を後にする。
 次のお寺は安国論寺。安房の小湊
 から鎌倉に出て「立正安国論」を著
 した寺。寺の名もそれに因んで付け
 られたといわれる。本堂の手前右手
 の崖に「立正安国論」を書いたためお
 籠りしたとされる岩崖のお堂には祖
 師像と並び白猿像が祀られている。
 松葉ヶ谷法難の折、日蓮は猿の案内
 で難を逃れたそう。次なるお参り
 は妙法寺。渋い美しさが漂う鎌倉の
 古刹らしい雰囲気のお寺。日蓮上人
 が鎌倉に来て初めて草庵を結び鎌倉
 での布教の拠点とされたお寺のため
 焼き討ちに遭い松葉ヶ谷法難の一つ
 ともいわれている。鎌倉の苔寺とも
 いわれて有名。アップダウンの山道
 を巡っての健脚、皆さん改めて確認
 されたことでしょう。房総が生んだ
 聖人の事跡を回顧しながらの鎌倉詣
 ではありました。

春の草花食べられる？

シロツメクサ(クローバー) 若い葉は塩ひとつまみ入れた熱湯でゆて水にさらし、水を切ってからからし和えやごま和え、油炒めに。花はさつとゆでて三杯酢に。生のまま焼酎に付けて花酒を楽しむのもよし。一度試されてはどうですか。

第二十七回定期総会報告

平成十五年一月二十六日(日)午後一時より中央公民館講堂にて第二十七回定期総会が開催されました。今年はこのほか厳しい寒さが続きましたがこの日は良いお天気にくぐまれ八十八名の会員の出席の下、平成十四年度の事業報告及び決算報告、十五年度の事業計画案と予算案が審議・承認され、新委員として養輪さんと齊藤さん・近田さんを紹介、そして今期の役員全員が承認され和やかなうちに終了しました。

国際都市横浜を訪ねる。

古川好夫

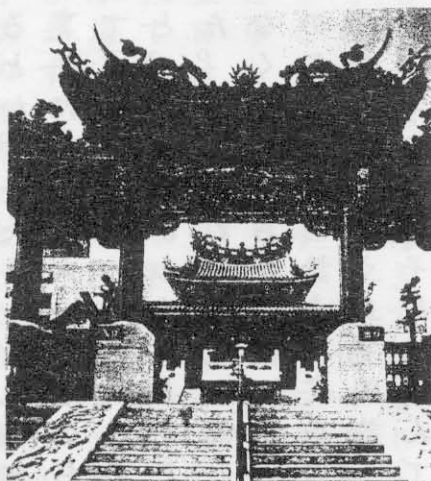
立春も過ぎ、春一番も吹いたというのに寒さ厳しい三月四日異国情緒漂う横浜を訪ねる旅に参加、総勢三四名、JR酒々井駅八時集合、八時二十二分出発。ロマンチックな街横浜に思いを巡らせること一時間四十分横浜駅に到着、根岸線で桜木町へ、早速野毛山不動尊を訪ねる。ここは成田山別院、「延命院」の寺号で多くの人に親しまれている。

再びJRで石川町へ移動、横浜中華街に入り関帝廟にお参りする。ここは三国志の武将関羽を祀った所で、異郷に暮らす華僑の心のよりどころとなつている。三国志の世界に思いを馳しながら自由昼食。午後一時山手方面へ、左にフランス橋を見て坂道を登ると「港の見える丘公園」に着く。眺望横浜一の絶景で横浜港、ベイブリッジ、など大パノラマを満喫。アーチの屋根に赤レンガの潇洒な館「大佛次郎記念館」、岩崎博物館などを横目に横浜外国人墓地へ、こ

こには世界四〇か国四六〇〇人が永遠の眠りについている。垣根沿いに鉄道技術者の墓標群があり鉄道の父エドモンドモレルの墓もあった。彼はイギリスから来日した青年技術者でその生涯を日本の鉄道建設に捧げた。合掌・・・南無阿弥陀仏。

明治の洋館を復元した山手十番館、大正時代のエリスマン邸、昭和初期のカフェ「えの木てい」などハイカラな洋館を左右に元町公園をぬける。さらに商店街を通り石川町駅に到着、帰路につく。

午後五時二分JR酒々井駅到着。木枯らし吹く寒さも何のその満足度百パーセントの旅でした。



関帝廟

酒々井町郷土研究会平成15年度役員・運営委員名簿

役名	氏名	住所	電話
顧問	沖田善三郎		
"	会田 秀雄		
会長	青木 朝次		
副会長	上田 悦子		
"	高木 正浩		
会計	丸山 正義		
	林 芳子		
監事	蒔 玉子		
"	桜井 徳三		
運営委員	鶴岡 知子		
"	上野 和子		
"	寺本 恵美		
"	近田 トメ		
"	有田 政勝		
"	行武 政市		
"	執行 正勝		
"	佐藤 照子		
"	矢野 三雄		
"	浜口 信義		
"	蓑輪 光正		
"	犬島 正子		
"	久我かず子		
"	岡田 利光		
"	古川 國雄		
"	富沢 勝		
"	福田 照子		
"	木村 雍子		
"	相京 豊		
"	斉藤 ヨシ		

執行部及び運営委員の役割

執行部			顧問
会長	青木 朝次		沖田善三郎 会田 秀雄
副会長	上田 悦子		
	高木 正浩		
会計	丸山 正義		
	林 芳子		
監事	蒔 玉子		
	桜井 徳三		

総務
久我かず子 福田 照子

研修	
寺本 恵美	有田 政勝
行武 政市	執行 正勝
矢野 三雄	浜口 信義
蓑輪 光正	古川 國雄
富沢 勝	相京 豊

広報	
鶴岡 知子	上野 和子
佐藤 照子	岡田 利光
岡田 利光	木村 雍子

野草	
近田 トメ	犬島 正子
犬島 正子	斉藤 ヨシ

平成15年度事業計画		酒々井町郷土研究会											
行事名	職	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 定期総会	1	○											
2 会報発行	4	○		○		○				○			
3 講座・ 学習会	郷土史講座	1							○				
	史談会	7		○	○	○	○	○		○		○	
	町内史跡めぐり	1			○								
	古文書学習	8		○	○	○	○	○		○	○		○
	街道を歩く	2							○		○		
4 研修 見学会	一泊コース	1			○								
	日帰りコース	2		○								○	
	名勝探訪	4	○			○			○			○	
5 野草 の会	野草観察会	2			○						○		
	七草粥を食べる会	1	○										
6 役員会・運営委員会	5	○	○		○			○		○		○	
7 生涯学習フェスティバル文化展	1											○	

郷土研日誌		
月日	内容	参加人員
12/21	編集会議	25人
/26	印刷	6
/27	発送	24
1/8	監査	5
/9	献立会議	5
/17	総会準備会	23
/19	鎌倉方面	27
/26	総会	88
/30	七草粥買物	9
/31	七草粥を食べる会	84
2/1	史談会	13
/7	横浜方面下見	3
/18	古文書の会	10
/28	研修部会	6
3/1	史談会	13
/4	日帰り横浜方面	34
/7	編集会議	5
/8	運営委員会	19
/15	編集会議	5
/18	古文書の会	10
/20	編集会議	6

見学

案内



野草観察会

県立中央博物館
青葉の森公園生態園方面

四月二十二日(火)

今回はバスに乗って右記の方面へ見学・観察に行きます。緑のそよ風に吹かれながら気持ちいい春の一日を植物を見ながら歩いてみませんか。皆様お誘い合わせてお出かけ下さい。

町内史跡巡り

(教育委員会後援申請中)

五月十一日(日)

雨天代替五月十八日(日)

恒例の行事ですが、年々歳々不同人で初めて歩く方もあるでしょう。またそうでない方も再認識することがあるかもしれません。

◎日蓮宗常清山妙楽寺

台地の中腹に建っています。中でも七面堂は毎月十九日が縁日で檀家の方々が集まります。頂くお札は魔除けです。

◎阿弥陀山長福寺

山号のとおり阿弥陀如来が御本尊で脇侍の持国天、多聞天ともに県の文化財です。六地蔵は六角形の石幢ですが笠石が紛失してしまいました。

◎駒形神社

毎年四月第一日曜日に無形文化財の獅子舞がここと菊賀神社、大鷲神社の境内で保存会氏子の方々によって奉納されます。

◎伊篠松並木

面影は皆無ですが、今は昔、成田参詣の道として賑わいがありました。参詣記念の石碑が点々と残っています。

◎佛樹山浄泉寺

千葉氏一族栗飯原氏が建立した寺です。最近本堂格天井の絵が完成されました。

◎松雲寺

浄泉寺の末寺で無住です。お堂には阿弥陀如来や薬師三尊、十二神将が安置されています。

畑の中を通り三人地蔵の由来を思い出おこし、宗吾参道駅(京成電鉄)への細い坂を下りて駅前にて解散です。

一泊見学会

五月十三日(火)

五月十四日(水)



新潟・弥彦方面

宿泊先 みのや

☎ 〇二五六-九四一-二〇一〇

野山の緑美しい好季節、山や海からのオゾンを一杯浴びながら今回は新潟に旅します。

刈羽郡高柳町にある江戸中期に造られた村山家の貞観園(指定の名勝)の名園を案内人付きで観賞します。泊りは弥彦温泉で日本海のお魚と名酒でくつろぎ、ゆっくりお湯で疲れをとります。

翌日は日本最大の大鳥居に出迎えられる弥彦神社に参拝します。次に日本海に沿って北国街道を出雲崎に行きます。

子供の世界にとけこみ、清貧にありまんながら多くの和歌や詩を作り、

人々から良寛さまと親しまれたその足跡を求めて良寛記念館と良寛維宝堂を見学。良寛さまの心にふれてみるのは如何でしょうか。

皆様お誘いあわされて心豊かな楽しい旅に御参加いただけますようお願いし込みをお待ちしております。

◎貞観園 村山家は寛永年間(一六二四〜四四)に東頸城郡松之山から岡野町に移住し、代々この大庄屋をつとめてきた。江戸中期に幕府の庭師の設計で京都風に造られその造形美は驚嘆されている。

◎弥彦神社 西蒲原郡弥彦村にあり祭神は天香語山命。越後一宮で延喜式に記されている。江戸時代は幕府から五〇〇石の朱印地が与えられた格式ある神社。

◎良寛維宝堂 三島郡出雲崎町にあり、旧橋屋山本家跡(良寛生誕地)に小さなお堂があり、県史跡になっている。

◎良寛記念館 良寛堂のすぐ南側の丘に立つ。良寛は一七五八(宝暦八)年に橋屋に生まれ一八三二(天保二)年に七十四歳で生涯を閉じる。記念館には良寛の書や和歌や詩など

関係資料が展示されて見る人に感動を与えている。

名勝探訪



六月六日(金)
雨天代替六月十日(火)

武蔵国分寺跡方面

梅雨前の一日を国分寺市の史跡と清流および庭園を巡りたいと思います。武蔵国分寺は天平年間(十八世紀中頃)に諸国におかれた国分寺の一つで寺地面積三町四方と諸国分寺中最大の規模といわれています。

「お鷹の道」は徳川將軍家が鷹狩りに行き来した道といわれ、湧水の清流に沿って小道があり雑木林や竹林に覆われ、なかなかの風情があります。「殿ヶ谷戸庭園は和洋折衷の林泉公園で豊富な湧水を利用して武蔵野の面影を残しています。全コース約一時間ですので多くの方々の参加をお待ちしています。

七草粥を食べる会	
(平成15年1月31日)	
会計報告	
収入	
会費700円 参加者73名	
700 × 73 = 51100円	
雑収入	10000円
	61100円
支出	
材料費	42243円
諸雑費	20430円
	62673円
不足	1573円

あとがき



今年の冬は三寒四温の言葉どおり寒い日暖かい日がくり返しの日々でした。

皆様お元気ですか。三月の始めには春一番が吹き荒れ、終わりには例年より遅くなりましたが桜の便りが届き心がなごみました。

四月になり漸くあたたかな日を迎えました。郷土研も春日和にそって新たな行事を用意しました。

古文書学習会は四月から島田家文書を学習します。牧で栄えた江戸時代の酒々井の様子が見えてくるのではないでしようか。皆様の御参加をお待ちしています。

郷土研行事案内

平成15年4月～6月

<p>史談会</p>	<p>4月 なし</p>	<p>5月 10日(土) 13:30 会議室 「古今佐倉真佐子」③ 講師：高橋健一先生</p>	<p>6月 7日(土) 13:30 会議室 「古今佐倉真佐子」④ 講師：高橋健一先生</p>
<p>古文書を 読む会</p>	<p>4月 15日(火) 13:30 社会福祉協議会 「島田家文書①」</p>	<p>5月 20日(火) 13:30 社会福祉協議会 「島田家文書②」</p>	<p>6月 17日(火) 13:30 社会福祉協議会 「島田家文書③」</p>
<p>野草観察会</p>	<p>4月22日(火) 雨天決行 申込受付：4月8日(火) 9:00～10:00 公民館ロビー 集合時刻・場所：9:00 中央公民館 帰着15:30予定 観察場所：県立中央博物館見学 青葉の森公園生態園の観察 参加費：1000円(昼食代など) 定員：33名</p>		
<p>町内 史跡巡り</p>	<p>5月11日(日) 『上岩橋・伊篠方面』 雨天代替5月18日(日) 集合時刻・場所：9:00 JR酒々井駅東口(東酒々井側) JR酒々井駅—妙楽寺(七面様)—長福寺—駒形神社—伊篠の松並木— 浄泉寺—伊篠青年館(昼食)—松雲寺—三人地藏—宗吾参道駅(解散) *弁当・飲み物持参 解散15:00予定</p>		
<p>一泊見学会</p>	<p>5月13日(火)～5月14日(水) 『新潟・弥彦方面』 申込受付：4月8日(火) 9:00～10:00 公民館ロビー 定員：45名 集合時刻・場所：6:45 中央公民館 会費：24500円 宿泊先(みのや ☎0256-94-2010) 5/13公民館(7:00)—湾岸幕張—三芳—六日町(昼食)—高柳町・貞観園— 柏崎—弥彦温泉(泊) 5/14弥彦温泉—弥彦神社—良寛記念館—良寛維宝堂・芭蕉園—寺泊(昼食)— 嵐山—小菅—酒々井 キャンセル 実施日5日前迄 青木 皆様の御参加お待ちしております。</p>		
<p>名勝探訪</p>	<p>6月6日(金) 『武蔵国分寺跡方面』 雨天代替6月10日(火) 集合時刻・場所：8:00 JR酒々井駅 JR酒々井駅——錦糸町——JR西国分寺駅——武蔵国分寺跡— —真姿の池——お鷹の道——殿ヶ谷戸庭園——JR国分寺駅—— —JR酒々井駅 (16:00帰着予定) *弁当・飲み物持参 (場合によりコース変更あり)</p>		